

成果・課題	<p>研究の構想の観点に沿って、成果を述べましょう。研究の構想での観点が3つならば、研究の成果も3つの視点から、述べるのが一般的です。</p> <p>また、考察した内容から導き出された成果や課題になっていること（整合性があること）が大切です。課題は次の研究に向けてのスタートになります。「課題＝研究の失敗」ではないので、「手だての何（どこ）が不十分だったのか」を明らかにして、次の研究の実践課題にしましょう。</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの変容ならびに仮説の有効性を明らかにします。 明らかになったことを、仮説に基づき、構想の3つの観点（内容、過程、手だて）からまとめます。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究の不十分だった点と改善点 研究の発展性（新たなアプローチの仕方）
表現の仕方	<p>読み手を意識して、分かりやすい文章で表現しましょう。</p> <p>「短い文」「段落の設定の仕方」「接続詞の使い方」「文末表現」などに気をつけましょう。</p> <p>図や表、グラフなどを用いて、視覚的に表現すると効果があります。根拠となる資料は、十分に検討して精選しましょう。</p> <p>書き上げたら、推敲して、誤字・脱字がないようにしましょう。</p> <p>行間や余白のバランスなどレイアウトも工夫しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「である」調で書く。例：～が重要である。 一つの文章は短く。主語と述語を必ず対応させます。 子どもや教師の立場の文を統一し、混在させないようにします。 <p><グラフの特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフ → 推移を表す 円、帯グラフ → 割合を表す 棒グラフ → 大きさや量を比較する

3 書き上げた教育実践論文を見直してみよう！

Q: 教育実践論文を書いたけれど、これでよいのかな？

A: 次の視点からもう一度見直してみよう。

- ・課題性……教育的に見て価値があり、意味がある。切実な問題、現時点で解決が迫られている内容である。
- ・独創性……新しい視点からのアプローチがあり、独自の意見や主張がある。
- ・実用性……教育実践上の改善を示唆し、課題解決に役立つ内容である。また、日々の授業実践に活用できる内容になっている。
- ・科学性や一貫性……主題、目標、仮説、構想、考察、成果と課題が一貫した流れで、論理が展開している。客観的なデータに基づく根拠があり、筋が通った考察やまとめがなされている。
- ・表現の適切性……分かりやすい文章でまとめられており、正確で簡潔、明快な表現である。

注意! **気をつけよう!**

- 個人情報保護…… 学習プリントの記述や写真など、個人が特定されるような情報があるものは掲載できません。個人が特定できないように写真の撮り方（角度や向き、手元を撮るなど）を工夫したり、学習プリントなどの氏名は削除したりしましょう。
- 著作権…… 授業実践や文章など、他の人の著作物を流用することはできません。引用文献や参考文献がある場合は、必ず出典を明記しましょう。

困ったら、授業力向上支援センターへ

授業力向上支援センターには、役立つ書籍や学習指導案、これまでの教育論文が豊富にあります！教育センターのHPからダウンロードもできます！

お問い合わせは、

福岡市教育センターへ
 福岡市早良区百道3丁目10番1号
 研究支援課 (TEL 822-2876)
<http://www.fuku-c.ed.jp/center/>


チャレンジしよう! 教育実践論文

自分の教育実践を「教育実践論文」にまとめると、次のようなよい点があります。

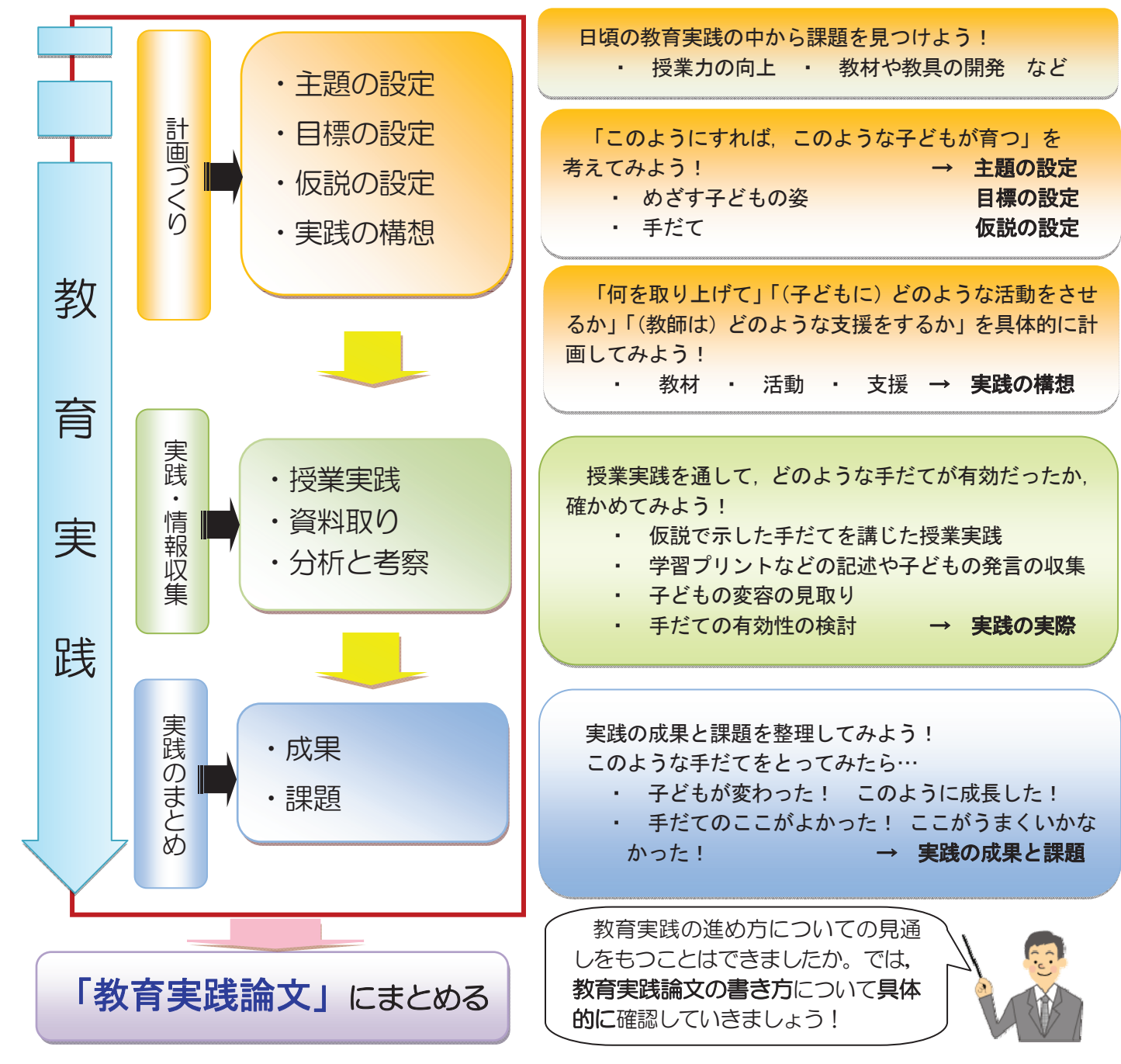
- 課題意識をもって、教育実践に臨むことができる。
- 教育実践をまとめる過程で、成果や課題が整理される。
- 自分の教育実践が形として残る。

教育実践論文に取り組むことで、授業を見直すことができるだけでなく、確実に

実践的指導力
が高まります！

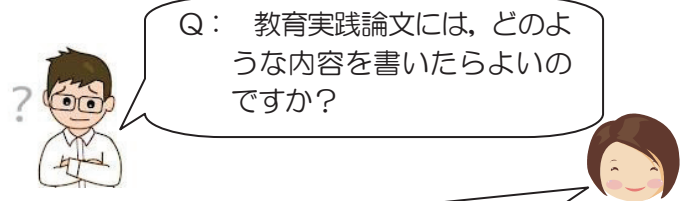


1 教育実践論文にまとめるまでの見通しをもとう！



2 教育実践論文を書いてみよう！

教育実践論文の全体像をイメージしよう！



Q: 教育実践論文には、どのような内容を書いたらよいのですか？

A: 右に示しているような項立てが教育実践論文の一般的な例です。

- ・ 主題、目標や仮説、構想など理論的な部分
- ・ 実践例（実証授業）から結果を分析し、考察する部分
- ・ 成果と課題をまとめた部分

の**3つの内容**から構成します。

<教育実践論文の項立ての例>

- I 研究の基本的な考え方**
- 1 主題について
(主題設定の理由, 主題及び副主題の意味)
 - 2 研究目標
 - 3 研究仮説
 - 4 研究構想 (内容, 過程, 手だて)
 - 5 研究構想図
- II 研究の実践**
- 1 実践例(実証授業) ① ② ③…
 - 2 結果の分析と考察
- III 研究の成果と課題(研究のまとめ)**
- 1 研究の成果
 - 2 研究の課題

研究の基本的な考え方をまとめよう！

Q: 主題及び副主題や目標、仮説、構想などを書くことのよさは何ですか？
また、何を書けばよいのですか？
ポイントを教えてください。



A: 各項目を書くよさと内容は、次のようになります。



<書き方の例>

めざす子どもの姿

教科・領域

主 題 課題を解決するために必要な実践力を身に付けた生徒を育む技術・家庭科学習指導の在り方
副主題 一学んだ知識と技術を活用する問題解決的な学習活動の設定を通して

手だて

主題設定の理由を書くときの視点(例)

- ・ 子どもの実態と発達や特性
- ・ 教科, 領域の特性や目標
- ・ 現代社会における教育課題
- ・ 地域や社会の要請
- ・ 研究のあゆみやこれまでの指導の反省

仮 説 技術・家庭科学習指導において、学んだ知識と技術を活用する問題解決的な学習を設定し、次の活動を仕組めば、課題を解決するために必要な実践力を身に付けた生徒を育むことができるであろう。

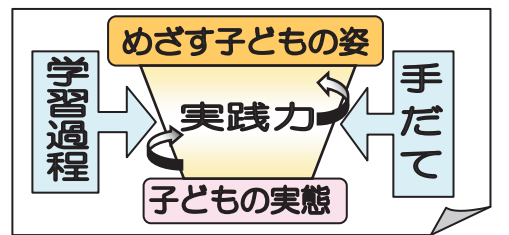
- ・ 技術を適切に評価し活用する活動
- ・ 多様な視点から情報を吟味して意思決定し、実践する活動

授業実践では、立てた仮説を単元や題材レベルで、より具体化して書いていきましょう。

<題材での仮説の例> 題材「幼児のおもちゃづくり」

- ・ 安全性や丈夫さ、身に付く能力等の視点から、幼児のおもちゃを検討する場面を設定すれば、生徒はより具体的な改善策を立てることができるだろう。

<構想図の例>



研究の実践・成果と課題をまとめよう！

Q: 教育実践論文で、研究の実践や成果と課題を書くとき、どのようなことに気をつけたらよいのですか？
ポイントを教えてください。



A: 子どもの変容をしっかりと見取ることが大切です。
そのポイントを下の表にまとめました。



項目	書くことのよさ	書く内容
主題及び副主題	「めざす子どもの姿」「取り組む内容」「方法(手だて)」の視点から簡潔に表現します。 主題をみれば、教育実践論文のおおよその内容を読みとることができます。 また、主題の意味を具体的に分析することで、めざす子どもの姿が達成できたかどうかを判断する拠り所(判断規準)となります。	・ 主題…めざす子どもの姿, 学級や教師の姿を示して, どの教科・領域で, 何をするのかを書きます。 ・ 副主題…視点や主な手だてを書きます。
目標	研究の内容や方法を焦点化するために必要です。 研究のゴールを示すものであり, 研究のねらいを定めるものです。	何を明らかにして何を探究しようとしているのかを簡潔に書きます。 例: ○○科の指導法の在り方を明らかにする
仮説	研究の見通しをもつことにつながります。 手だてを「このようにすれば」、めざす子どもの姿が「このようになるであろう」という見通しをもつことができます。研究の完成度を左右するものです。	次の3つの内容を書きます。 ・ ○○(研究の内容や場)において ・ □□を□□(手だて)すれば ・ △△(めざす子どもの姿)になるであろう
構想	仮説で示した手だてをどのように具体化するかを表現しています。 構想を具体的に書くことができれば, 授業実践ですべきことが明確になります。構想図に表すと, より整理されたものになります。	仮説で示した手だてを, 次のような視点からより具体的にしたものを書きます。 ・ 取り上げる教材 ・ 仕組む学習活動 ・ 支援するときの留意点

項目	ポイント	留意点
記録・情報収集	子どもがどのように変わったかを見取るために、客観的なデータがとれるような記録をとっておきましょう。 数値で表せるアンケート結果の他、子どものノートの記述や作品など、具体的な形で残しておくことが大切です。	<変容を見取るための記録・情報> ・ 教育実践の前と後のアンケートの実施 ・ ノート, 学習プリントや作品などの累積 ・ 子どもの発言や活動の様子を撮ったビデオなど
分析・考察	授業実践で ① 「どのような手だてを講じたか」(手だて) ② 「どのように変わったか」(めざす子どもの姿に近づいたか) ③ 「どのような手だてが役立ち, どのような手だてが不十分だったのか」(手だての有効性) 以上の3つの視点から整理しましょう。 特に, ③の「何が有効だったのか」を根拠を明確にして, 考察することが大切です。 ※「実践」「根拠」「判断」を明確にしましょう。 仮説に照らし合わせて, 子どもがめざす姿に近づいたかどうか, それは手だてのどのような働きによってもたらされたのかを量的・質的変容の両面から考察するとよいでしょう。	・ 質的変容 子ども(抽出児童・生徒)の発言やプリントの記述, 作品等の具体物や行動, 観察結果等から見取ることができる変容。 ・ 量的変容 研究の手だてによって, 全体の子どものどれくらい変容したか, 事前・事後のアンケート数値の変化等から見取ることができる変容。 <考察の書き方の例> ○○(教科・領域)において, □□させたこと(手だて)は, 子どもが△△していく(めざす姿)上で有効であった(又は不十分であった)。 このことは, 子どもの◇◇な発言や記述から判断できる。